

特集

つながりを探る ゆるやかなつながり を中心に

横浜市政策局政策課

vol. 170

「お互いの間を結んでいるものはあるとして、それはゆったりしたロープのようで、いつもは下向きに垂れている。しかし必要な時には、どちらかがそれをわずかに引っばって、相手に自分の方へやって来てもらう。あるいはロープを手さぐりしつつ、先方に近づいて行く。そうしなくても相手がそこにいることを、ロープで結ばれていることによってではなく、眼で確かめる。そのような仕方が、さらに束縛感なしにすむだろう。さらに、生活の進み行きで、岩場に立っているような緊急の時、片方が足をすべらせるとすれば、かれを支えるために、もう片方が、ある余裕を持って自分の足場を確保することができる」（大江健三郎『ゆるやかな絆』より）

調査報
調季報